

平成28年度 学校自己評価システムシート (清和学園高等学校)

目指す学校像	通信制・単位制の良さを生かしながら、自分の目的に合わせて生徒一人ひとりの夢や希望を叶える学校
--------	--

重点目標	1 挨拶の励行と整理整頓を柱に基本的生活習慣の確立 2 学習指導の改善と充実 3 資格・検定取得の推奨と部活動の活性化
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	3名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価(2月13日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 様々な学習歴を持った生徒が入学してくるが、その多くは、基礎的学力が身に付いておらず、その上、挨拶や身の回りの整理もできない生徒が目立つので、基本的生活習慣の改善が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上を目指した工夫や改善がみられたか。 教師自ら率先して挨拶や声かけができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 週2日間で5時間、基礎学力教科別スクールと題して学び直しを毎週実施する。 スクーリング時に教科書・学習書・上履きの指導を徹底し、守れない生徒は、スクーリングを欠席とする指導の徹底。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科別スクールに積極的に参加を呼びかけているか。参加していない生徒の指導が十分できたか。 実習服の整理整頓や教科書の持ち帰りの個別指導ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科別スクールへの評価を1月に実施し、その結果不登校の生徒の出席率が前年度より多くなった。 教師個々の声かけにより、整理整頓や、上履きの指導は、成果があがった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒の教科別スクールへの参加は増えたが、またまだ参加していない生徒への対応をどうするか今後の課題である。 スクーリングを受ける態度は向上しているが、単位習得率の向上に繋げたい。
2	<ul style="list-style-type: none"> 単位習得率が教科によって差があるが、学習指導の改善と生徒主体のアクティブラーニングの推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科によって単位習得率が異なる中、指導内容の改善や工夫がみられたか。 生徒主体のスクーリングができるような教材や実習の工夫があるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学や英語といった生徒の苦手教科については、副教材の「ラスパ・ラルボ」を中心にスモールステップによる個別指導の徹底を図る。 実技や実験を伴う教科はもちろん、教室でも視聴覚教材を使用して、生徒主体のスクーリングの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 副教材を使つての個別対応の中で能力別プリント作成を実施することができたか。 実験の事前準備や視聴覚教材の積極的な活用が、できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別対応のプリントも全教科で作成できるよう取り組む。 アクティブラーニングの取組も進んできたが、どの教科でも取組めるようも検討していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 単位習得率も全教科で90%以上と高いが、更に保護者からの信頼を高めるよう心がけていく。 アクティブラーニングの研修会等に一人でも多くの教師が積極的に参加し、研究を深める。
3	<ul style="list-style-type: none"> 本校は通信制高校では、珍しく、国家資格の取得できる自動車科がある。合格率を全国平均以上に上げることが一つの課題である。 ゼミナールや資格演習で一つでも上位の資格を目標にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年3月に実施される国家試験の合格率を上げる取り組みができたか。 検定試験において一つでも多くの試験に合格することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車科においては、国家試験対策を1月より実施し、教師自らの予想問題作成と過去問の徹底指導と能力別のクラス編成の実施。 資格演習と教科別スクールにおいても、能力別に分けた個別指導の徹底。 	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた学習指導を推進することができたか。 教師自らの自作問題での指導が十分できたか。 能力別の個別対応に対する教材がきちんとできているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の合格率は確定ではないが、94%には届かない。全国平均は上回ることができた。 資格取得では、昨年度以上の結果を残すことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の合格率の現状を把握し、来年度に活かせる指導の取組の実施。 教師の自作プリントの申し送りと、個別指導での基礎学力の徹底を図る。
4	<ul style="list-style-type: none"> 通信制高校の特性により部活動に参加する生徒が少ない中、学習以外でもやればできるという自信が付けられるという観点から、部活動の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の経験の少ない生徒が、部活動に参加することができるようになったか。 各種大会に積極的に参加できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎からの反復練習と汗を流すことの楽しさを分からせるための、生徒の能力にあった指導メニューの作成。 他校との練習試合や合同練習の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動機会を多く持つことができたか。 他校との交流を通して、部活動の楽しみや勝ちの喜びを分かちあうことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化部・運動部合わせて10の部活動で活躍することができた。 軟式野球・バトミントンで県大会でベスト4に入賞。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 文化部の外部発表の場が実現したので、更なる発表の機会を増やしていく。 同好会から部活動への昇格の取組の実施。

実施日	平成 27年 2月28日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 毎日登校することが難しい通信制高校では基礎学力の向上が一番難しい所であると思われるが、教科別スクールの取り組みは基礎学力の無い生徒には良い試みである。一人でも多くの生徒が参加できる仕組みの研究を継続していただきたい。 様々な生徒の対応は大変だと思うが、生徒の良いところを伸ばしてあげる工夫を、継続して頂きたい。 単位習得率も年々向上してよく傾向にあると思われる。引き続き努力してもらうことが大切ではないか。 アクティブラーニングという言葉は最近よく耳にするが、実際のスクーリングではどのように行われているのか。生徒の主体性を伸ばすことの研究は継続していただきたい。 今年度の国家試験の合格率は、昨年度のようにはいかなかったようだか、原因をしっかりと分析し、来年度に繋げていただければと思う。 反面資格試験については、昨年以上の合格者を出せた事は良かったと思う。 様々な学習歴を持つ生徒が入学してくる通信制高校は、大変だと思う。しかし、個々の生徒と向き合う先生方の姿勢は、すばらしいと思う。地域に根ざした学校を目指してほしい。 	

